

Ⅱ 演習次第

1. 再発防止策の妥当性考察

対策事例1 試験条件間違い

対策事例2 印刷間違い

対策事例3 部品違い

対策事例4 シール貼り忘れ

対策事例5 部品のつけ忘れ

対策事例6 試験漏れ

対策事例7 発送先間違い

対策事例8 見積もり間違い

2. 再発防止策の立案

事例1 受注プロセス

事例2 製造プロセス

事例3 出荷プロセス

演習の進め方

ある会社では、以下に示す
ヒューマンエラー事例について、
問題点を明らかにし、
問題の発生状況を調査した上で原因を特定し、
再発防止策を決定した。

この再発防止策（対策事例 1～8）について、
上記 5. 5) 防止策検討の手順と視点及び 5. 6) ポカヨケを参照し、
実現性、費用対効果、標準化と管理の定着などの視点を加えて
妥当性を考察し、妥当解を導きなさい。

演習の進め方

以下に示す

ヒューマンエラー発生事例（事例1，2，3）について
問題の発生状況をよく理解した上で，

上記4. 2) ヒューマンエラーモードとヒューマンファクター
及び4. 3) ヒューマンファクターと影響要因を参照して，
ヒューマンエラーモード，ヒューマンファクター及び影響要因を
考えなさい。

その上で，

上記5. 5) 防止策検討の手順と視点及び5. 6) ポカヨケを参照し，
実現性，費用対効果，標準化と管理の定着などの視点を加えて
再発防止のための取るべき処置を考えなさい。